光市高潮ハザードマップ

～ 高潮避難地図（光市東部版）～

《高潮に備えて》

もしも、海の水が押し寄せてきたら、あなたはどうしますか？

- 台風が光市に接近したときには、高潮発生のおそれがあります。
- 高潮とは、台風の気圧や暴風の影響により海面が異常に上昇する現象です。この海水が陸地に浸水すると、非常に危険です。
- このマップは、非常に大きな台風の接近により、大規模な高潮が発生した場合の状況と、その時にあなたがどこに避難すればよいかを示した地図です。
- いざという時のために、家族や隣近所で話し合っておきましょう。

自分の家や避難先・避難路を確認しておきましょう

我が家の防災メモ

我が家の避難（集合）場所と連絡先

場所/　　電話番号/

家族の緊急連絡先

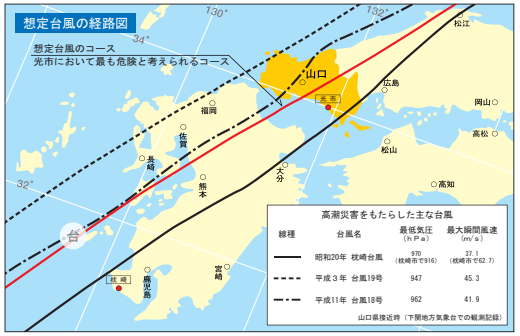
名　前	学校・勤務先	電話番号

その他の連絡先　（親類や知人など連絡のとりやすい人を記入してください）

機関名・氏名	電話番号

浸水予測を行った台風の想定

このマップは、光市において最も危険と考えられる台風のコースで、枕崎台風規模の台風が襲来した場合を想定し作成しています。この場合、裏面の地図の色づけした部分が浸水する可能性があります。
浸水の危険度に応じて３色に色分けしていますので、自宅などの危険度を確かめてください。



※台風が九州付近に接近し、南～南東の強風が吹くと、高潮の危険性があります。
※光市の西側を台風が通過すると、台風の進むスピードと風のスピードが重なって、高潮が大きくなる傾向があるので注意が必要です。

想定台風の規模

枕崎台風（鹿児島県枕崎市で916hPa）規模の台風を想定しています。

《枕崎台風とは？》

終戦直後の昭和20年（1945年）9月17日～18日に来襲した超巨大台風で、伊勢湾台風や室戸台風とならぶ昭和の三大台風のひとつです。
秋雨前線の活動と台風の来襲が重なり、長時間の暴風雨となったため、山口県では、激しい豪雨による河川の氾濫や高潮など、県下全体で死者・行方不明者701人を数える大災害となりました。

①②平成３年の台風19号による光井地区の被災写真（平成3年9月27日）
③　平成11年の台風18号による虹ヶ浜地区の被災写真（平成11年9月24日）

高潮発生のメカニズムと潮位

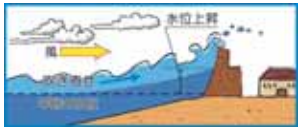
高潮は、台風により発生します。①気圧の低下による海面の吸い上げと、②強風による吹き寄せの影響で海面の潮位が上がり、場所により異なります。

①気圧低下による海面の吸い上げ

台風の中心気圧は周辺部より低いため、周辺部の大気は海面を押し付けるように、また、中心付近の大気は海面を吸い上げるように作用します。この結果、海水がこれとつりあうように流動し、台風中心に向かって水面が上昇します。

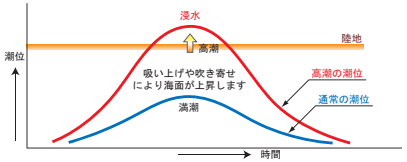
②風による吹き寄せ

強い風が海岸部に向け長時間にわたり吹き続けると、風下の海岸に海水を吹き寄せます。このため、海面が異常に上昇します。



③高潮の潮位

大潮期の満潮と高潮のピークが重なると、海面がたいへん上昇しやすく危険です。



【高潮の模式図】

※大雨により河川の水位が上昇しているときは、河口付近ではさらに水位が高くなるおそれがあります。

浸水時の危険

■浸水時の状況

- 高潮になると、海から道路や水路に濁流が流れ、住宅や車などが浸水します。
- 50cmの浸水では、大人のひざほどの高さとなります。1mの浸水では、大人の胸ほどの高さとなります。
- 浸水時には、車のブレーキが効かなくなるなど、運転は危険です。
- 濁流で路面が見えません。窪みで転倒したり、水路に転落する危険があります。
- 暴風雨や漂流物で歩きにくいだけでなく、ケガをする危険があります。
  ※河川や水路からも高潮が遡上し、浸水することがあります。

■浸水の危険度

- 高潮避難地図は、浸水が予測される区域を３色にランク分けしています。
- これは、浸水の深さと浸水が到達する時間の早さの両面から、危険度を判定し、事前に避難を要する重要度の目安を表したものです。

■浸水時の避難の危険

基本は事前の避難です。浸水が始まる前に、できるだけ海や川から離れ、高台や頑丈な建物の２階や避難所などに自主的に避難しましょう。

※危険を伴いますが、浸水時にやむを得ず避難するときは、近くの安全な場所へ一旦避難をし、次のことに注意してください。

①履物
運動靴が最適です。長靴は水深が深いと中に水が溜まるので動きにくくなります。素足は大変危険です。

②足元に注意
水の中に何があるかわかりません。安全を確認しながら進みましょう。

③歩ける深さ
歩ける深さはひざぐらいまで。
腰まで浸かって歩くと体力を消耗します。
流れがあるときは20cmでも危険なときもあります。

④高齢者や障害者、子供など
移動が難しい方たちには、一緒に避難の手助けをお願いします。
はぐれないよう、お互いの安全確認を心がけましょう。

連絡先やお問合せ先

災害時の緊急連絡先

光警察署	０８３３－７２－０１１０（代）	●緊急時　１１０
光地区消防本部	０８３３－７４－５６００（代）	●緊急時　１１９
光市役所	０８３３－７２－１４００（代）	

避難情報の確認

光市防災広報ダイヤル　（電話番号　０８３３－７２－１４１０）
光市ホームページ　URL　http://www.city.hikari.lg.jp/

台風接近の際には、避難所の開設や避難勧告等の情報を「防災広報ダイヤル」や「光市ホームページ」で随時更新しています。情報の確認にご利用ください。
※回線に限りがありますので、不通のときは時間をおいておかけ直しください。
※ホームページには、光市高潮ハザードマップも掲載しています。

台風・高潮（潮位等）に関する情報

ＮＴＴの気象情報　（電話番号　１７７）
- 下関地方気象台発表の気象情報（高潮警報等）を、聞くことができます。
- 防府港の満潮、干潮の時刻などを知ることができますので、光市における潮位の目安にしてください。

山口県土木防災情報システム（インターネット）
- 「潮位情報」では、光観測局（光市光井）の潮位や気圧等をご覧いただけます。
- その他、山口県内の雨量、河川の水位情報や気象情報を、リアルタイムに配信しています。
  ＨＰアドレス　http://y-bousai.pref.yamaguchi.lg.jp
  ※携帯電話からもご利用できます。

電話による安否確認や伝言

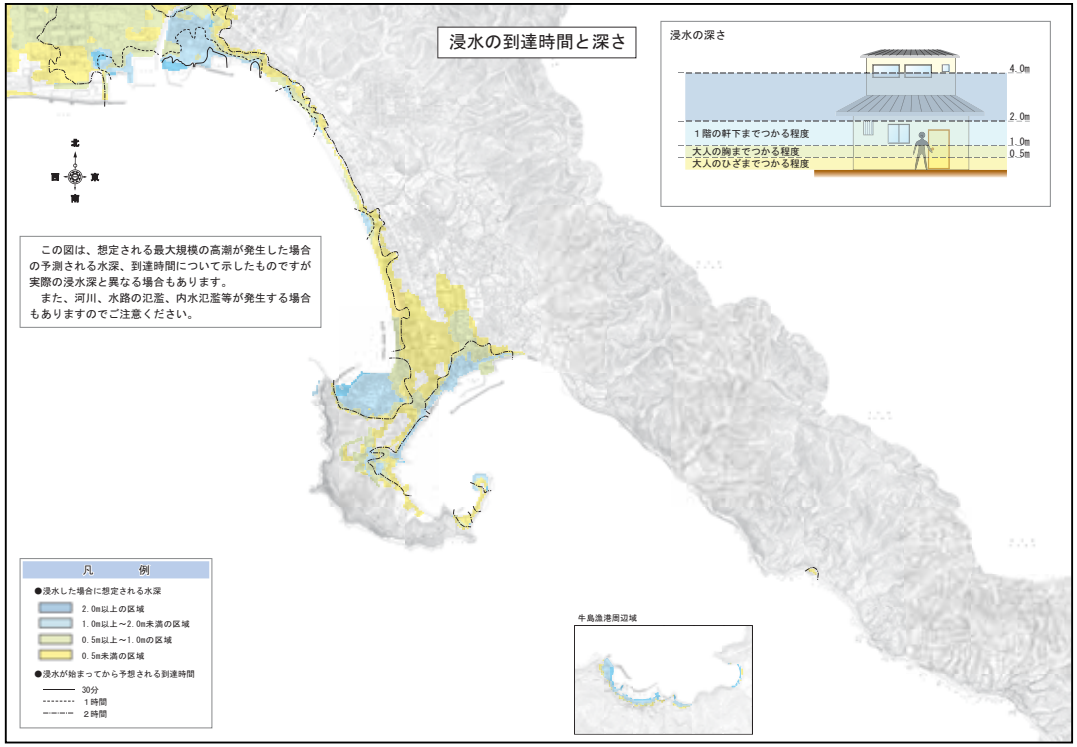
ＮＴＴ災害用伝言ダイヤル１７１　（電話番号　１７１）
大災害時に電話がかかりにくい場合、家族の安否確認や伝言を行うことができます。
全国どちらからでも使用できます。
電話局番「１７１」をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。

携帯電話の災害用伝言板（携帯電話ウェブ）
携帯電話を利用して、家族の安否確認や伝言を行うことができます。詳しいご利用方法は、各携帯会社のホームページ等をご覧ください。

マップに関するお問合せ先
光市役所　総務課・土木課　０８３３－７２－１４００

平成18年9月作成

浸水の到達時間と深さ



この図は、想定される最大規模の高潮が発生した場合の予測される水深、到達時間について示したものですが実際の浸水深と異なる場合もあります。
また、河川、水路の氾濫、内水氾濫等が発生する場合もありますのでご注意ください。

避難の心得

- 日頃から非常持出品の準備や備蓄をし、いざというときの避難場所や連絡先を話し合っておきましょう。
- テレビ、ラジオの台風情報、高潮警報に注意しましょう。

- 危険を感じたら、早めに、自主的に事前避難してください。
  ※市では、皆様の連絡、台風・高潮の状況等により自主避難所を開設します。
  ※高潮浸水の恐れがある地域には、市が避難勧告等を発令しますが、危険を感じたら自主的に避難しましょう。
  ※避難の呼びかけに注意し、ただちに避難をお願いします。

- 避難所への移動が困難な場合や緊急時は、できるだけ海から離れ、高台や頑丈な建物などに一旦避難し、安全を確保しましょう。
- 障害のある方や高齢者、子供などの避難援助をお願いします。
  ※危険の判断や移動が困難なため、避難に時間がかかります。
- 隣近所に声を掛け合い、単独行動は慎みましょう。
- 避難時は、溝や水路、土砂災害に注意しましょう。
- 自動車での避難は止めましょう。交通渋滞や事故をまねきます。

～そろえておきたい非常持出品の例～

※その他、着替えやタオルなどもそろえておくと良いでしょう。